

平成27年度 清瀬市立清瀬第二中学 自己評価表

学校教育目標	健康(よりたくましく 心身をきたえる) 愛情(より豊かな心をつちかう) 学力(より深く 自ら学ぶ) 勤労(よりよくはたらき 責任をはたす)
--------	--

目指す学校像(ビジョン)	1. 確かな学力を身につける(指導法の工夫により基礎・基本的な知識や技術を確実に身に付けさせる) 2. 自己実現に向けて努力する(キャリア教育を通して将来について考え、社会に出て通用する生徒を育てる) 3. 豊かな心や健やかな体を育成する。(生命尊重の教育を実践し、全教育活動を通じて心身を鍛える)
【目指す学校像】	1. 豊かな心や健やかな体を育成する。(生命尊重の教育を実践し、全教育活動を通じて心身を鍛える)
【目指す児童・生徒像】	1. 豊かな情操を育む生徒 2. 自ら考え判断し行動する生徒 3. 社会性のある生徒
【目指す教師像】	1. 共に力を出し合う教師 2. 課題を発見し、改善に繋げる教師 3. 自己研鑽に励み自らを高める教師

前年度までの学校経営上の成果と課題	1. 職層に応じた役割を明確にし、校内体制を整備し、組織的計画的なOJTにより教職員の資質向上に繋げる。 2. 基本的な生活習慣の確立と並行し、学力向上を本校の第二ステージとする。そのために生徒が自ら考え行動できる自主自律的活動を育成する。
-------------------	---

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標	
確かな学力の向上	二中スタンダードに沿った授業研究や特別支援教育の研修を計画的に行い、授業規律の確立と授業力を高める。	4	4	小学校からの系統的な指導により、学力向上に繋げる。その手立ての一つとして二中スタンダードに基づいた授業を実施し、授業研究で検証している。今後は、モデルとなる授業研究を実施し、さらに研修を深めていく。	3	4	研修を生かした実践により個に応じた指導ができつつあり、来年度へ引き継ぐ形となった。授業規律の遵守が生徒の落ち着きや学力向上に現れている。しかし、都の平均と比較すれば、基礎的・基本的な学習内容の定着と底上げの取組が必要である。同時に、学力向上に直結する分かる授業を展開させることが必要である。
漢字検定、数学検定、英語検定などを定期的に実施し、能力の伸長と学習意欲を向上させる。		3		各検定試験へ挑戦する生徒が昨年度よりも30%以上増え、それが学習意欲と繋がりがつつあるが、合格率を高めるために、放課後補習などの取組を行っていく。	3	3	各検定試験(英語・漢字・数学)を全校で取り組むことや小学校から継続して検定試験に挑戦させることは、学習意欲向上につながる。しかし、最終的な目的は、合格であり、生徒が意欲的に検定試験に挑戦し続けるには、日頃の授業の充実や放課後補習などの工夫が課題として残った。
豊かな心の育成	1年生・2年生で職場体験(3日間)の実施や各学年のねらいに応じた外部人材を活用してのキャリア教育を実施する。 あいさつプラス一言運動の徹底、アンケート・SCによる面接や定期的に相談週間を設け、実態を適切に把握し、問題の未然防止に繋げる。	4	4	2学年での職場体験では、将来を見据えて、進路を意識させることができた。1学年では、事前学習として企業との連携でマーケットリサーチを実施した。これにより職業への理解や知識を高める。 アンケートやSCによる全員面接は、生徒の実態を的確に把握することに役立った。問題の早期発見・未然防止には、日々の観察や挨拶を継続して行い、外部機関とも密接に連携していく。また、不登校傾向にある生徒に対する明確な手立てを行っていく。	4	4	1, 2年生は、3日間の職場体験を通して、職業や社会のルールについて深く学ぶことができていた。その教育的効果は、日頃の学校生活の中に顕著に現れている。また、職場体験を行うことにより、地域との連携が密になり、地域の一員としての自覚と責任をもつ機会となる。 Q-Uテストの活用により表面に現れない内面を把握することができたが、Q-Uテストが全てではなく、日頃からアンテナを高くし、常に情報を共有していくことが問題の未然防止・早期解決となる。来年度は、相談週間、挨拶運動など学校が目標を明確にして、組織的な取組が必要である。
健全な体の育成	部活動では、技術向上に繋がる外部指導員の活用をする。部活動、地域クラブへの参加により運動習慣と体力向上を図る。 個に応じたTTの授業、部活動などで持久走の自主練習を取り入れ、100%のマラソン大会参加率を目指す。	4	4	外部指導員との連携により、技術指導に効果が見られるようになり、それは、大会での成績に確実に結びついている。今後も継続して活用するとともに、指導方法も工夫していく。	3	4	外部指導員を活用して、技術向上を図った成果は、大会の結果や練習内容に現れた。全ての部活動に外部指導員が配置されているだけでなく、平等な指導には課題がある。授業の工夫は、保健体育の授業への積極的な参加に現れ、昨年度に比べ、見学者がかなり減少した。
本校の特色①	学力調査の結果に基づき、指導改善に繋げる授業研究を年2回以上実施する。 教科、道徳、行事のねらいに応じた外部人材を活用し、目標達成や生徒の変容に繋げる。	4	4	授業でのティーミーティングを生かして、習熟度別の個別指導を行っている。授業や部活動などで、持久走を取り入れることで、持久力が高まりつつある。マラソン大会を自己記録更新の目標とさせる。 今年度も見合う時間確保のために、授業研究実施日・時間を複数設定し、年2回以上の研究授業を実施することができた。今後は、改善点の検証とアクティブラーニングを研修の中で行っていく。	4	4	精神力、持久力などの力がマラソンを通して身に付けることができた。参加率95%や授業開始前のランニングにより走ることへの抵抗はなくなった。しかし、体力テストでの持久走が横ばいであり、日頃の実践が体力テストの数値に直接結びつく工夫が必要である。 年2回の授業研究は、継続していく。しかし、学力調査や定期考査を分析し、指導の重点化を図る必要がある。授業研究がマンネリ化せず、授業改善に結びつくために、テーマを決め検証していく必要がある。
本校の特色②	生徒会活動や各専門委員会の活動内容を明確にし、活性化に繋がる取組を実施する。 年間2回の街頭募金活動や地域の活動に積極的に参加させることにより、多方面に目を向けさせ、ボランティア精神を高める。	3	4	生徒会を中心とした様々な活動は、専門員会への活性化へつながっている。現在の取組を継続しつつさらに発展した取組(いじめ防止等)を実施していく。	4	4	一つ一つの生徒会活動に沢山の生徒を参加させることができた。しかし、実施期間を明確にし、活性化させるためには、年度当初に活動の年間計画が必要である。 生徒会の募金活動は、学校の特色として継続するが、活動が固定化している傾向にある。近隣の小学校、地域、企業との連携や校内で全校生徒が取り組める活動を考えていく必要がある。